

波乱の幕開け

今年は平成になって早 20 年目となりました。来年には平成生まれの人が成人を迎えることとなります。消費税が導入されたのも平成元年で来年で成人を迎えますが、果たして税率がアップされるのでしょうか？

さて、年明けから各経済指標は波乱の展開となりました。特に日本の株式市場は、昨年末から年初にかけて下げ続け、今月 11 日には日経平均株価は 2 年 2 ヶ月ぶりの安値水準となりました。昨年末の日本の株価は年初より下落し、下落したのは 5 2 カ国中わずか 5 カ国で、下落率はワースト 2 になりました。インド、ブラジル、中国の新興国は 70% もの大幅な上昇したのと比べると、日本市場の低迷ぶりが際立っています。

為替は対米ドルで 1 ドル 110 円を割り込み、原油相場は昨年末に 1 バレル 100 ドルを突破等、日本経済にとっては悪影響を及ぼす警戒すべき指標のオンパレードです。株価というのは、半年から一年後の景気を取ると言われ、過去にも株価が下げれば後の景気も悪化するということが繰り返されてきた経緯があります。

特に、原油の急騰に連動してガソリン価格も値上がりし、自動車をよく利用される方は、環境問題と合わせて燃費を意識している方も多いのではないのでしょうか。この際マイカーそのものをあまり利用せずに、電車・バスに切り替えている方もいらっしゃるでしょうが、それは別として、燃費を向上させる為の工夫をいくつかご紹介します。

まず、アクセルを踏むときは、じわりと踏み、急加速を避けることです。特に市街地などでの渋滞の場合はなおさらです。車間距離を長い目にとることも急な加減速が減るので有効です。しかし、あまり長すぎると後ろからどんどん追い越され、イライラすることにもなりかねません。ある統計によると、自動車の燃料消費量は状態別では、発進時が全体の 38% を占め、以下、巡行時 35%、停止時 19%、減速時 8%、と続きます。

停止時のアイドリングも気をつけたいことです。エンジンの始動時には多い目に燃料を消費するのではとの疑問もあるようですが、ある実験によると 5 秒以上停車する場合はエンジンを止めた方が消費量は少ないという結果がでています。最も、今の寒い時期は人を待っている間などはヒーターを使う為にエンジンをかけっぱなしにする向きもあるようですので、燃費向上か寒さ対策か、ケースバイケースとなってくるでしょう。ただ、信号待ちの度にエンジンのオン、オフを繰り返すとバッテリーに負荷がかかるので、エンジンの再始動が出来なくなる危険がありますので、これは止めた方がいいでしょう。

その他、不要な荷物は降ろす、タイヤの空気圧をチェックする、等々普段の地道な心掛けと努力で燃費は向上しますが、数量を抑えることと、単価を下げる工夫も必要でしょう。私は、あるガソリンスタンドの会員カードを使っています。このカードを使って給油すると普段はリッター当たり 2 円引きになり、土日の給油ではさらに 2 円引きになり、ときどきキャンペーンで、さらに 5 円引きになる期間もありますので、合計 9 円引きの時もあります。さらにおまけとして、給油の際ルーレットに当たりが出ればいくらか値引きになります。これはあてになりませんが、たまに当たるとたとえ 1 円引きでもうれしいものです。

ところで株価ですが、過去子年の相場は上昇していることが多く、ネズミが子たくさんことから「子」は「繁栄」を意味します。果たして一部の大口の外国人投資家の投機的な日本売りで、「窮鼠猫をかむ」のことわざにあるように日本株が逆襲するのか、又、「円安バブル」と言われる輸出企業中心の景気拡大が中小企業にまで裾野が広がらないまま終わってしまうことを示唆しているのか、予断を許さない状況です。